

第7回庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会 会議録（摘録）

1. 開催日時 平成30年9月26日（水） 13：30～16：00

2. 開催場所 庄原市役所 5階 第1委員会室

3. 出席委員 西村 和之 委員長・藤谷 善久 副委員長・胡子 悅子 委員
住田 鉄也 委員 ・西田 学 委員 ・藤谷 健司 委員
松田 智仁 委員

4. 欠席委員 本平 正宏 委員 ・八谷 るりこ 委員

5. 出席職員 企画振興部企画課長 東 健治
企画振興部自治定住課長 森岡 浩
教育部生涯学習課長 花田 讓二
企画振興部企画課企画調整係 原田 淳司

6. 傍聴者 9名

7. 会議次第 別紙のとおり

8. 会議経過 別紙のとおり

第7回 庄原市市街地公共施設のあり方検討委員会 次第

■日時 平成30年9月26日（水）13：30～
■場所 庄原市役所 5階 第1委員会室

1. 開会

2. 議事

(1) 庄原市民会館・庄原自治振興センターの今後の整備について 資料1 資料2

(2) 今後のスケジュールについて 資料3

3. 閉会

会議経過

1. 開会 東企画課長 挨拶

2. 西村委員長 挨拶

3. 議事

(1) 庄原市民会館・庄原自治振興センターの今後の整備について 資料1 資料2

委員長：庄原市民会館、庄原自治振興センターの機能を考えた上で、今後の両施設の方向性を出していきたい。忌憚のないご意見をお願いしたい。

1. 庄原市民会館が今後果たす役割（機能）について

委員：資料2P. 1の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 4の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 6の記載のとおり。

委員：市で行なうべき市民行事のうち、大規模なものを実施する。市民活動、生涯学習発表の場。本物の芸術文化を鑑賞し、楽しむ場所であるべきだ。

委員：市民がやってほしいと思うものと実際行なわれているもののミスマッチがあると思う。市民会館は、庄原市で一番の芸術文化の拠点であることは間違いない。今後の庄原市の芸術文化をどうするのか。また、同じ建物を2つの団体が管理しているので、市民会館と自治振興センターの役割をきっちり分け、明確にする必要がある。ハード面からいろいろ考えるのでなく、ソフト面を検証し、今後のあり方を考えることが必要である。

委員：文化活動、芸術活動の拠点施設であり、市民文化意識の高揚に努める施設とすべきである。都市機能を発揮させるため重要な施設である。

委員：20年後にはますます高齢者が増える。若者や高齢者を含め、多くの人が使いやすい施設とすべきである。「きりり」は高齢者が利用するには厳しいと感じている。若い人が望むコンサートなどは「きりり」に任せ、庄原市民会館は高齢者にとって使いやすい改修としてほしい。

委員：市民の芸術文化発表の場であって欲しい。大規模なイベントも実施して欲しい。

委員長：意見を集約すると、庄原市の芸術文化活動の拠点とすべきであり、拠点に見合った施設が必要となる。利用者が使いやすく、また、高齢者や障害者に限らず、誰もが使いやすい施設としてよろしいか。→異議なし

機能を特化すべきであるという意見もあるが、そのためには、市の芸術文化がどうあるべきなのかを示す必要があり、今回の委員会の範疇を超えると考える。

2. 庄原自治振興センターが今後果たす役割（機能）について

委 員：資料2P. 1 の記載のとおり。特にセンター機能を持たせるのであれば強化すべきである。それらを実現するためには、施設整備も必要となる。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 4 の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 6 の記載のとおり。

委 員：もともと中央公民館のため、他の自治振興区からも人が来ることから、総合的サークルも利用するという機能は重要となる。また、避難所としての機能も重要である。

委 員：庄原自治振興区の望みに最大限答えていくことが大切であるため、今の要望を整理する必要がある。生涯学習における旧庄原地域を越えたセンター的機能は、NPO 庄原市芸術文化センターが担っていると考えている。自治振興におけるセンター機能は、現在は自治定住課であり、将来的なことは自治振興区連合会としても模索中である。中ホールについては、市民会館大ホールを小規模化したようなホールと自治振興区が望む会議室的な中ホール、可能であれば、両方を満たすようなホールを建設すべきである。

委 員：協働のまちづくりをめざし、住民自治活動の充実を図る施設とする。地域住民のコミュニティーの基盤として、茶の間のような場所であるべき。ただし、施設に課題が多く、他の地域からの利用も多いので、区民も区民以外も良いと感じる施設にすべきである。

委 員：狭くて使い勝手が悪く、車椅子では事務室に入れない。使い勝手の良い自治振興センターになればよいと思う。会議等はふれあいセンターへ行くべきということも聞くが、駐車場の問題もあり、難しいと思う。

委 員：不便さを感じておられるので、活動しやすく、また立ち寄りやすい施設にすべきである。

委員長：庄原自治振興区が求めるものを満たす施設とするという意見が多かったように思う。自治振興センターなので区民の皆さんのが望む施設とすることでよいと思う。一方で、話の中で出てきたセンター的機能については、現在では、中央拠点という整理はなされていない。区の皆さんの施設とするか、区の施設及び市全体の施設とするか、話がまとまりきれていない部分がある。

委 員：自治振興区区民の絆を大切にする施設であるべきであり、市全体まで考える必要はないと思う。

委 員：庄原自治振興区がセンター機能まで果たすには、まだ機は釀成されていないと思う。庄原自治振興区が求められるものがある程度用意しないと、自治振興区としての役割を果たせないと思う。庄原自治振興区は33自治会があり、あまりに大きく、まとめるのは大変である。ただ、市内の自治振興区には、もっと施設的に厳しいところもあるということを、庄原自治振興区の方々にも少しはご理解いただきたいと思う。

委員長：庄原自治振興区としての機能を最大限発揮できる施設にするべきという意見が多いと思う。市民会館は市全体のものという感覚だと思うが、庄原自治振興センターはどのような位置づけになるのか？センター機能としてはどのように感じておられるか？

委 員：元中央公民館としての貸館機能は、市民会館が持っているのか、庄原自治振興センターが持っているのか、利用者はあまり意識していないと思うが、庄原自治振興区の機能ばかりを考えると、元中央公民館が担っていた市全体に対する貸館機能等に支障が出るのではないか。整理する必要がある。

委 員：元中央公民館としての機能は、生涯学習を含め、市民会館が持っていると考える。庄原自治振興区はその自治振興区内だけを所管すればいいと思う。ただ現況は、庄原自治振興区内の生涯学習と区域外の生涯学習活動が混在している状況だと思うので、元中央公民館としての機能について、市民会館と庄原自治振興区との役割分担を明確化すべきである。

委員長：事務局に聞くが、市民会館と自治振興センターに関する施設の機能分担の変更、管理者の変更等は可能なのか。

事務局：それぞれ設置管理条例があるが、技術的にはそれを改正すれば、変更は可能である。ただ、利便性の向上や、両施設の管理者の協議が整うことが前提となる。

事務局：可能ではあるが、生涯学習を庄原自治振興センターから離し貸館機能を無くすと、庄原自治振興センターの活動場所がなくなり、今の活動ができなくなる可能性がある。旧庄原地域以外の自治振興区も、自治振興の拠点機能と貸館機能を両方持っている。区画を厳密にすると、自治振興区の活動に支障が出ると思われる。

委 員：生涯学習を見れば、元中央公民館の自主公民館活動を現在の庄原自治振興区に委託しているから、あくまで庄原自治振興区の区民の皆さんがあ効活用することが一番である。

委 員：今の庄原自治振興区の施設の充実を図るという面は、みなさんほぼ一緒であるが、20～25年先の庄原市の自治振興はどうなっているか。その受け皿として、庄原自治振興センターを考える必要があるのではないか。そこを見据えてこの委員会から提言しなければならないと考えている。

文化拠点は三次で借りられるが、自治振興の拠点はここしかない。庄原の自治は庄原でやるしかない。中長期的には、「庄原市の自治振興の充実のために、庄原自治振興区がその中心になる」という考えを持って提言すべきである。

委員長：今までの話をまとめると、「今回の改修については、庄原自治振興区の要望にできる限り答える」という考え方必要だ。

今後の要望として、「10～20年後には、各自治振興区をまとめるセンター機能を備えた組織も必要となってくるのではないか。」としてよろしいか。→異議なし

3. 庄原市民会館・庄原自治振興センターの整備場所及び整備方法（建替えや大規模改修など）について

委員：資料2P. 1の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 4の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 6の記載のとおり。

委員：市民アンケートのとおり、大規模改修がよい。

委員：基本はA委員と同じ。ヒアリングにおいて多くの意見のあった中ホールは、予算が可能であれば、今の敷地内に建てる。中ホールというより多目的ホールとすべき。今建設しておけば、20年後には残しておいて、その他の建物を直すことができる。

委員：現在地での整備がよい。財政が厳しい中、建替えは困難である。都市機能の中心として大規模改修する。

委員：20年後を見据え、中ホールは必要である。大規模改修を支持する。

委員：市民会館と自治振興センターの区分けが必要だと思うが、現在地を望まれているのでそれを支持する。ただ、20年後を考えると市民会館の移転も考えられる。将来的に市全体の人口が減る中で、時間はすぐ経過するため、もっと先を見て、今から20年後を考える必要がある。

委員長：現在地での大規模改修という結論としてよろしいか→異議なし。

改修内容は後ほど議論とする。

4. 庄原市民会館・庄原自治振興センターの改修内容について

(1) 共通事項 ①～⑥の項目については、資料1参照

委員：資料2P. 1の記載のとおり。②について、20年ではなく、25年後を見据える。現在私が勤務している建物は、RC（鉄筋コンクリート）建築物で築84年経っている。雨漏り等しているが10年以内に大規模改修の予定である。RCの建物はメンテナンスをすればかなり持つので、20～25年後の庄原市の財政状況を考えると、建物の延命策をとることも考えられ

る。また、バリアフリーによりさらに考え方の進んだユニバーサルデザインを取り入れるべきである。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 4の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 6の記載のとおり。

委 員：①～⑥賛成。

委 員：①～⑥賛成。

委 員：①～⑥賛成。

委 員：①～⑥賛成。

委 員：①～⑥賛成。

委員長：20年後庄原市の財政が好転しているとは思えない。基本は①～⑥はそのまま委員会の意見とするが、付帯事項として、さらに長い期間も見通すことを求めるとしてよろしいか。→異議なし

(2) 庄原市民会館の改修について

委 員：資料2P. 2の記載のとおり。苦渋の決断でイを選択する。席数1割減であれば、まだ理解を得られる。可動席により車椅子の方の空間を確保する。舞台装置等の設備は直接委員会の範疇ではないため、付帯意見とする。外壁はタイル張り、塗装は行わず、洗浄、防水塗装とし、デザインは変更すべきではない。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 4～5の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は資料2P. 6～7の記載のとおり。

委 員：①座席数はエを選択。今の段差では、床工事をしなければ車椅子用座席の導線が確保できないのではないかと考える。前ピッチを広げ700席程度がよい。新潟県十日町市の越後妻有（エチゴツマリ）文化ホール708席・人口5万人、兵庫県西脇市660席・人口4万人、富山県南砺（ナント）市670席・人口5万人など、人口的に見れば700席程度かと思う。南砺市や長崎県南島原市も728席だが、この規模でもNHKは来ている。800席ないとNHKが来ないという根拠がわからない。大きいイベントは、三次の「きりり」を使えばよい。

②トイレに関しては、高校生など和式を好むので、いくつかは残してもらいたい。

③ロビーは、照明、壁を変えて少し明るくしていただきたい。

④舞台装置⑤その他については、椅子を換える事によって音響へ影響が出ないかなど、音響空間設計の専門家に相談しながら進めるべきである。楽屋の使い勝手についても専門家へ相談すべきである。市民会館と自治振興センターの事務機能を一本化して、利用者に分かりやすく、事務室の空きスペースを別なものに使うべきである。いずれにせよ、人口

は減っていくのだからダウンサイジングを考えた上で改修すべきである。

委 員：①座席数はウを選択。変わったことがわかるように、また満席になることは少ないので778席を選択。車椅子席は、今回の障害者大会でも応急処置したが、設置は可能であると考える。

②トイレは、1つは和式を残す。洋式については、予算の可能な限りウォシュレットをつけてもらいたい。

③ロビーはLED照明とするが明るすぎない方がよい。

④舞台装置等はこの委員会で考えることでない。

⑤その他については、施設を2つの組織が管理しているが、それぞれの正面受付玄関をはっきりさせるべきである。今の芸術文化センター事務室に自治振興センターが入るべきであり、芸術文化センター事務室を今の北玄関を一部改修して新たに確保する。楽屋があまりに貧相であるため、きれいにすべきである。

委 員：①座席数はイを選択。今の段階では、中央通路より前のみを変更し、後側は変更しない。

②トイレは、両方の管理者の意向を良く聞く。

③ロビーは照度を上げる。

④舞台装置等は新しいものが必要である。

⑤その他については、事務室の改修が必要であり、市民会館事務室を自治振興センター事務室に変更するなどで、レイアウトを変更すべきである。

委 員：①座席数はイを選択。

②トイレは、他の委員と同じ。

③ロビーも他の委員と同じ。

④舞台装置等も他の委員と同じ。

⑤その他については、楽屋の水回りなど改修すべきである。北玄関前の旧学校跡地の有効活用を考えるべきである。外壁は今まがよく、防水等すればよいと思う。

委 員：①座席数はエを選択。500～600席でよいので、寝て見られるなど特徴を出すべきである。700～800席にこだわる必要はないと思う。席数だけではなく何らかの特徴を持たすべきである。

②トイレは、一部和式とし、ウォシュレットをつける。多目的トイレを設置する。

③ロビーはA委員と同じ。

④舞台装置等は最低限必要なものは整備する。

⑤その他については、正面玄関は南側駐車場側がよいと思う。事務室は市民会館が広いので考えるべきである。楽屋もシャワーやトイレなど改修すべきである。

委員長：①座席についてユニバーサルデザインとして、車椅子席への配慮は必須である。

委 員：今の座席の階段について変更できるのか？前後幅は変更できないのか？

委員長：階段まで変更するとなると床を変更することになり、予算的にも難しい。

ただ、椅子を変更すれば、前後幅を変更しなくてもある程度改善できるという話だった。

事務局：市民会館の構造上、他のホールのように、車椅子席を一番ステージ近くに配置することは不可能で、ホール中央通路へ設置するようになる。また、NHK 公開放送については、全ての収録で 1000 席は必要ではないが、のど自慢は 1000 席程度必要と言われている。放送内容によって座席数の目安に差があり、700 席程度でできる収録とできない収録がある。

委員長：今後市民会館の機能変更により座席数が変わることがあるかもしれないが、今回の委員会としては、座席数についてはイの 832 席とする。

②トイレについて、和式を一部残して、洋式トイレに極力ウォシュレットを設置する。ただし、導入コストやランニングコストを考慮してウォシュレットの導入数を決める。ユニバーサルデザインの考え方で、多目的トイレを各階に設置する。

③ロビーについて、明るさも必要だが、絵画等は明るければよいものではない。よって、照度の可変可能な LED 照明を導入する。

④舞台装置等について、本来は委員会の範疇ではないが、音響や照明、舞台装置等専門家の意見を良く聞いた上で導入すべき。ただし、大規模改修時にしか導入できないものと毎年度の予算で対応可能なものを分け、効果的に改修する。

⑤その他、楽屋について、個数はレイアウトのこともあるので、委員会としては判断しづらいため、より良い形で使いやすいものに改修する。

駐車場整備後は、南側の駐車場側がメインの玄関となっているので、可能ならば事務室をそちらに配置するよう検討する。事務室の共用は難しいかもしれないが、事務室の配置は、市民会館、自治振興センターが隣り合わせとなるよう検討する。

以上のとおりでよろしいか。→異議なし

北側玄関先のスペースについては、もったいない感じがするが、自治振興センターとも関連するため、次の議題とする。

(3) 庄原自治振興センターの整備について

委 員：**資料2**P. 3の記載のとおり。中ホール（大会議室）の移築に関しては、全国あまり例はないかもしれないが、使わなくなっている公共施設や民間施設を解体移転して再利用することで、新たな価値を付加することを考える。費用は新築と変わらない、全面的に安くなるわけではないかもしれないが、政治的パフォーマンスも含め、使わなくなったものを、新しい用途にして使い続けるという価値はある。鉄骨造または木造建築が移築しやすい。

事務局：欠席委員意見代読。内容は**資料2**P. 5の記載のとおり。

事務局：欠席委員意見代読。内容は**資料2**P. 7の記載のとおり。

委 員：①和室の洋室化について、2階全体の見直しを含めて改修する。間仕切りパーテーションで仕切るのが良いと思う。音楽サークルへ配慮した部屋があっても良い。

②中ホールについて、ホールは要らないが大会議室は必要である。

③その他について、北側の木の手入れをすべきである。実験実習室（調理室）があまり利用されていない。各部屋の冷暖房を改修する。

委 員：①和室の洋室化について、自治振興区の提案どおりで良い。

②中ホールについて、北入口へ中ホール（多目的ホール）をつくるべきである。誰が管理するかは別となるが、市民会館が管理する場合、現在市民会館管理の集会室は自治振興センター管理とすることで機能改善になる。

③その他について、なし。

委 員：①和室の洋室化について、自治振興区の提案どおりで良い。

②中ホールについて、市民会館の改修をした後、財政状況をふまえ、長期ビジョンの中で考えるべきである。

③その他について、なし。

委 員：①和室の洋室化について、二部屋続けては要らないと思う。一部屋だけ残す。

②中ホールについて、大会議室は必要である。

③その他について、実験自習室（調理室）は使いにくい。洋裁室は一番奥なので、音楽室にしてはどうか。事務室は市民会館と自治振興センターは交代すべきである。北側スペースについては、英学校跡地なので、広さはもったいないかもしれないが、変更はできないと思う。

委 員：①和室の洋室化について、C・D・Eを洋室化する。

②中ホールについて、大会議室は必要だと思う。

③その他について、事務室があまりに窮屈であるため、見直しが必要。

市街地にある保健センターなど他の公共施設も有効活用し、最低限の改修とすべきである。

委員長：①和室の洋室化について、自治振興区の要望どおり、研修室 C・D・E を洋室にする。パーテーションにするかどうかの判断は自治振興区の意見をふまえて判断する。研修室 A・B は和室としてそのまま残すとしてよろしいか。→異議なし。

②中ホール（大会議室）について、建設の必要はないという意見もあつたが、この場では、建設が必要であるという意見が多い。移築という意見もあったが、実際そのようなことが可能な施設はあるのか。

事務局：市の施設の中にそういう施設があるか調べる必要がある。

委員長：遊休施設の再利用（有効活用）は庄原市の PR につながる。

委 員：庄原市の遊休資産に限らず、他の自治体にもたくさんある。分校や小規模な学校の体育館がよい。

委員長：必要性は認めるが、財政的なこともあるので、もう少し様子を見た後建設するかどうか考えるという意見があるがいかがか。建設場所は、北側か東側かという問題もある。

委 員：難しい問題だが、予算だけを考えるのではなく、自治振興区からの要望があるのだから、可能な限り、小コストのものを建てるべきであるという意見は残して欲しい。

委 員：そもそも中ホール（大会議室）はできるものだと思っていた。それを今から建てるかどうか議論するとは思っていなかった。自分が利用できるうちに建てていただきたい。

委員長：20～25 年後がどういう状況になっているのか。今建てるということは、今後にしわ寄せが行き、何らかの施設を縮小したり、あの時建てたのだから次はありませんという話も出る。高齢者などを考えれば早く建てる必要があるが、今の若い人への借金負担の問題もある。借金返済は若い人だが、そこをどう考えるか？ そういう部分を配慮しながらの議論をお願いしたい。予算に極力配慮し、可能な限り小コストで、移築による省エネ、省資源の方法も考えながら、できるだけ可能な限り建設へ向けた議論を進めていただきたいという結論でよろしいか。

委 員：「中ホール」という名称の問題もある。

事務局：「多目的ホール」「多目的会議室」「多目的スペース」などの名称であれば誤解を生まないと思う。

委員長：どういった表現にするか、市で決めていただきたい。「多目的ホール」「多目的スペース」等でよいとは思う。面積の問題もあるが、今日の委員会としては、以上のような報告としてよろしいか。→異議なし。

委 員：庄原自治振興センターの③「その他」の項目はどうするか。

委員長：使い勝手が悪いと思われている現在の施設については、基本的に自治振興区の意見をふまえて改修を検討するとしてよろしいか。→異議なし。

委 員：集会室の管理は今まで良いか。自主的な会議室がない現状がある。
委員長：市民会館関係者がいない中で、決められない。多目的ホールができればいろいろ可能性も出る。A委員提出の談話室2階部分の増築、事務室移転についてを考慮するとしてよろしいか。→異議なし

(2) 今後の検討委員会のスケジュールについて 資料③

事務局：資料③を説明

委員長：10月上旬の委員会開催は、本日の議論を委員長と事務局でとりまとめ、委員の皆さんへ、本日の会議録と意見書を確認いただき、ご了承いただくという流れにすることで省略としてよろしいか。→異議なし。

委員長：次回は開催がしばらく開き、現地視察をしてからかなり時間が経過したので忘れた部分もあるかもしれないが、人口や財源が減少する中、今後の市街地全体の公共施設はどうあるべきか、考えをまとめた上でご参考いただきたい。

16:00 終了

以上、議事の経過ならびにその結果を明確にするため、本会議録（摘録）を作成し、会議録署名人が次に署名する。

平成30年9月26日

会議録署名人 西村 和之

会議録署名人 藤谷 善久